

暑かった、そして忙しかったが、 実りも多かった。

白屋帰郷プロジェクト・台湾交流訪問団報告

2014.7. 13-17

被災地市民交流会



白屋とペーパードームに 台湾で再会する・ スタディツアー

昨年、アートプロジェクトで石巻、大槌、樽戸を巡回した「白屋」6年前、被災地交流の証として神戸から台湾へ移設した「ペーパードーム」皆さん、もう一度台湾で再会し、交流しませんか。そして、台湾のまちづくり（社區營造）の現状を見学しませんか。

2014年7月14日・15日
紙教堂（ペーパードーム）埔里及び周辺

★ 交流イベントやまちづくり見学	7月14日(日)	7時～11時	紙教堂
★ 仙台空港発と関西空港発の2コースを予定 (標準日経は右表を参照)	7月14日(日)	7時～11時	紙教堂（ペーパードーム）交流イベント
★ 現地参加も受け付けます。	7月15日(月)	7時～11時	まちづくり見学、日経訪問
	7月16日(火)	8時～12時	紙教堂
	7月17日(水)	8時～12時	紙教堂

● 参加希望者は下記へ問合せください。
被災地市民交流会
天川 啓美 cts14330@rio.odn.ne.jp

企画 被災地市民交流会
新宮澤文教委員会 徳原白屋芸術村
協力 日華航空サービス株式会社



多彩な顔ぶれの交流団

1年かけたアートプロジェクトで石巻、大槌、神戸を巡回し今年3月台湾に帰郷した「白屋」、そして6年前被災地交流の証として神戸から台湾へ移設した「ペーパードーム」。もう一度台湾で再会し、交流の絆を深めようと、2014年7月13日－17日白屋帰郷プロジェクト・台湾訪問交流団が台湾を訪れた。

交流団は、東北から西條允敏さん以下4名、神戸から被災地市民交流会の5名、あわせて総勢9名である。台北在住で通訳のため同行してもらった李宇實さん（今回、ご苦労様でした）を含めると10名となる。うちアーティストが3名、そして女性が3名、年齢となると23歳から74歳と実に50歳の開きがある。なかなか多彩な顔ぶれとなった。

埔里

桃米村に集合（7月13日）

最初に訪れるのは「ペーパードーム」のある南投県埔里鎮桃米村だ。メンバーの出発地や到着日に違いがあるため、いくつかの組に分かれてそれぞれ宿泊先の民宿「景上景」に赴く。最後に到着したのが西條さん、すでに夜10時を過ぎている。民宿のテラスでビールを飲みながら談笑していた先着組や当地の方々の輪に合流、全員無事到着したことを祝って「乾杯!」。外を見渡すと夜目ながらも、眺望の良さが想像できる。桃米村には現在28の民宿があるが、ここは最も高い位置にある民宿の一つだ。朝見る景色を楽しみに、明日に備えてそれぞれ部屋へ戻ることに。「お休み!」「晚安!」



民宿「景上景」に到着。台湾ビールで乾杯。

多様な埔里のまちづくりを実感（7月14日）

① 日月潭

朝、マイクロバスと廖さん運転の乗用車に分乗し、まず、台湾で代表的な観光地日月潭に向かう。植民地時代日本人が発電所を作るなど縁浅からぬところだ。921地震で大きな被害を受けたが、今では大陸からの観光客も含め大変賑わっている。湖畔の遊歩道を少し辿りながら日月潭国家風景区管理所に向かう。ここは日月潭のビジターセンターであり、行政管理中心となっている。このスタイリッシュな建築は日本の建築家團紀彦がコンペに当選し設計したもので、台湾建築賞も獲得している。しばし、見学した後、次は画家黄義永さん



日月潭のビジターセンター、日本の建築家團紀彦の設計。

を訪ねるため埔里へ向かった。

② 黄義永画伯訪問

埔里鎮はちょうど台湾の地理的な中心にある人口約8万人の町だ。まとまった市街地を形成しており、このあたり一帯の中心的機能を担っている。921地震では大きな被害を受け、有名な紹興酒工場からたくさんの酒が流れ出た。

黄義永さん宅を訪れしばし歓談していると、そこに日本人の山内鐵雄さんが現れた。高速道路の建設で埔里に赴任していたが、退職後そのまま埔里に居ついてしまった。趣味で黄画伯に絵を習っているという。埔里は3Wつまり WATER, WINE, WOMAN（水よし、酒よし、女性がきれい）でまことに住みやすいと、すっかり埔里人になった山内さんのお国自慢が続く。話は尽きないが、次の南豊部落に行かなくては。



黄義永画伯（前列中央）宅で。左端が山内さん。

③ 南豊部落

埔里の市街地を抜け山地の道を川沿いに車は登っていく。しばらくしたところで左折、小さな集落へと入ったところで車を降りた。ここは台湾原住民族セデック族の集落南豊部落で、早速集落の人たちが出迎えてくれた。私たちの回りを様々な種類の蝶が飛び回っている。このあたりは蝶の生息地として知られたところだ。実は、最近新故郷文教基金会は、埔里一帯を蝶の王国として復活させようと尽力している。921震災後カエルやトンボを中心にエコ村づくりをテーマに桃米村の復興まちづくりを成功に導いたが、かつて豊富な蝶が生息した環境を取り戻そうと、広く埔里全体で運動を展開している。そして、この南豊部落はその拠点の一つでもあるのだ。



村民の蝶の説明を真剣に聞く学生たち。

昼食は集落の食堂で、原住民族の伝統料理をごちそうになる。豊富な野菜、お米、イノシシなど、どれも素朴でしかも味わい深い。食事後、復元した原住民族の伝統家屋などを見学し、南豊部落を後にした。



原住民の伝統料理、どれも美味しそう。

④ 敲敲木工房と籃城書屋

次に、埔里の市街地に隣接したところのある敲敲木工房を訪ねる。もともと埔里は木工が盛んだったが、時代の波で今は少なくなった。ここは若い経営者がオルゴール制作や自動描画機を導入しながら様々な製品を開発し、DIYも実施するなどやる気十分だ。

この後埔里籃城社区にあるコミュニティスペース・籃城書屋を訪ねる。本やテーブルなどが並べられ、喫茶を兼ね



工房の製品。オルゴール（紙教堂）やストラップ（すぐ金持ちに）。

備えた地域のサロンだ。暑いさなかの見学が続いた一同は、冷たいものを飲みながら、このサロンで少々へたり込んだ格好だ。

さて、いよいよペーパードームのある桃米村へ

⑤ 三茅屋民宿

桃米村は埔里の市街地からすぐ隣の小さな農村である。かつては米作りが盛んだったが、農業の衰退と共に若者は都会へ流出し、高齢者が増えるという典型的な村だった。921地震で大きな打撃を受け、最初村民たちは復興の方向が見いだせず途方にくれていた。しかし、やがて「この地には自然しかない」ことを逆手にとって、蛙、トンボ、植生など豊富な自然生態をテーマに復興村おこしを進めることを決め、それ以来村民自身で生態公園を整備し、自ら自然を学習し、そして外から自然を楽しむ人たちを迎えるといった活動を、地域の力量を高めることを基本にした社区營造（まちづくり）方式で進めてきた。現在は、村には28の民宿も整備され、多くの人たちがこの地を訪れるようになった。新故郷文教基金会は、震災後一貫して桃米のまちづくりを支援してきたNPOで、ペーパードームの台湾再生に中心的な役割を担った。

訪れたのはそうした民宿の一つ「三茅屋」、ここのオーナーは桃米の地元の人だ。周りにも数件の民宿があるが、これらのオーナーのお親戚筋の人たちである。桃米の民宿経営者には、一旦都会に出ていた人がUターンしてきた人もあり、又、我々の宿舎「景上景」のように退職後全く外部から来たというケースもある。どの民宿も夏の期間などは平日もほぼ満室ということで、観光が一つの村の産業となっていることがうかがえる。

⑥ 紙教堂（ペーパードーム）

1995年9月21日、台湾の中部で地震が発生し、神戸からも震災後様々な形で支援に駆けつけ、その後も被災地の市民交流活動を続けてきた。2005年1月阪神・淡路大震災10周年に際し、台湾の復興まちづくり関係者を招いて記念交流活動を開催し、ペーパードームで歓迎会を行ったとき、挨拶に立った台湾代表の廖嘉展さん（新故郷文教基金会董事長）が、突然PDを台湾へ移設して再生したいという構想を提案したのだ。それから3年半紆余曲折があったが、双方の協力と台湾の関係者による粘り強い努力によって、921大地震の被災地「桃米村」にペーパードームは見事再生した。そして、周辺に生態池やレストラン棟なども整備され、桃米生態村のビジターセンターとして、あるいはコミュニティセンターとして、毎日のように講座、音楽会、などの各種イベントが開かれ、多くの人たちで賑わっている。最近では毎年50万人が訪れるという。

私たちがたどり着いたもう夕方だった。園内を回ると、芝生広場が広がり、アート作品に出合ったり、あち



側面から見たペーパードーム（紙教堂）。池に映るところが絵になる。

ここに記念写真を撮るための仕掛けがあったりと、なかなか飽きさせない工夫がある。あちこちにある水面に映るペーパードームはなかなか格好いいものだ。

ペーパードーム園区内のレストランで夕食会。夕食会には、大槌のアートプロジェクトに2年にわたって参加してくれた廖珮如さんも駆けつけてくれた。大槌の壁画制作では、初めて足場上がったという珮如さん、懐かしいな。

正面では、二人の学生がバイオリンを演奏してくれている。彼らは埔里 Butterfly 交響楽団から駆けつけた2名の実習メンバーである。921 震災後音楽家たちが支援に駆けつけてきたこともあって、学生や生徒たちの管弦楽への関心が高まってきた。これらが契機となって、新故郷をはじめ様々な人たちの支援の下、昨年結成された地域の交響楽団である。最近、大槌に音楽ホールをと活動している「槌音プロジェクト」と縁ができ、今年11月には東京、大槌のチャリティコンサートにも出演する予定だ。

さあ、もう時間だ。これから高雄までの長旅が残っている。マイクロバスと廖さんの車に分乗し出発した。「さよなら埔里、又来ます。」



紙教堂園区のレストランで夕食、Butterfly 交響楽団が演奏してくれる。

高雄

白屋と深夜の再会！

夜の高速道路をひた走り、予定通り夜10時、高雄の橋仔頭芸術村「白屋」に到着した。蔣さん、商さんはじめ芸術村の主だったメンバーが迎えてくれた。園内に入ると暗闇の中に、電球の光と共に浮かび上がっている白屋が目飛び込んでくる。「オーっ、居る、居る。」一同、懐かしい気持ちと、帰るべきところに帰ったなという安ど感で、疲れた体に元気が戻るようだった。オフィスでしばし歓談した後、宿舎の「十鼓」に向かう。



深夜に再会した白屋。懐かしさで疲れた体が癒される。

宿舎「十鼓」は、やはり旧橋仔頭製糖工場の一角にある。「十鼓」とは台湾の文化創造を目指して2000年設立された太鼓集団「十鼓撃樂團」。ここもその拠点の一つとなっており、劇場、会議室のほか宿泊できる施設がある。今日はここに宿泊するのだ。宿舎はかつての工場の建物を改造、室の中は木材を使った特徴ある雰囲気である。翌朝、朝食の序に周辺を散策すると、タンクや煙突、倉



周辺にはタンクや倉庫が。

庫や貯蔵庫、廃線や防空壕までが何気なく残っており、当時現役だった頃の様子が想像されて大変興味をそそられる。

高雄のアート・ポイントへ

午前中は、高雄市の港湾に隣接した地域にあるいくつかのアート・ポイントを視察する。地下鉄を乗り継いで、まず鹽埕埔という駅で降り、すぐのところにある小さなビルの2階へ行く。ここは新浜碼頭芸術空間といい、橋仔頭芸術村に縁の深いアーティストたちが自分たちで立ち上げた展覧空間である。ここの責任者となっているアーティストの黄志偉さんが私たちを迎えてくれた。彼は石巻の白屋プロジェクトに参加したアーティストの一人だ。会場には、私たちも馴染みあるアーティストの作品がたくさん並んでいる。

新浜碼頭芸術空間を出て、港の方向へ歩いていく。高雄は小さな村落から大都市に発展したのだが、このあたりは初期に市街地が形成されたところである。その先の港湾も建設時期が古く、コンテナ化される中で第1線から退くことになった。そして、これに代わって、高雄市はこのあたり一帯を駁二芸術特区（The Pier-2 Art Center）にしようという力を入れている。倉庫を展示空間などに活用、野外には様々な立体作品が並んでいる。これだけの広がりを持つアートセンターづくりは注目しているものだろう。

アートセンターの倉庫の一つを改装したイタリアンレストランで昼食をいただいた後、落幕儀式（フィナーレ・セレモニー）に参加するため再び芸術村に戻った。

台湾日本交流座談会

午後2時台湾日本交流座談会が始まった。芸術村のギャラリー空間に、私達日本からの訪問団、そして台湾芸術村の関係者、新台湾壁画隊のアーティストたちといった面々があつまった。蔣耀賢白屋運営長の司会で、まず、台湾の主なメンバーの紹介。そして、日本の被災市民交流会垂水代表から日本のメンバーの紹介とプロジェクトの感想が披露



高雄市の港湾地帯にある駁二（The Pier-2）芸術特区。



野外には様々な立体作品が並んでいる



落幕儀式（フィナーレ・セレモニー）の案内状。

された。「長年の交流パートナー廖さんから紹介され、蔣さん、商さん夫妻に会って説明を聞いたのが2年半余り前。懐かしく思い出すが、当初うまく行く自信はなかった。」と白状する。続いてあいさつに立った廖さんも、「私も紹介したものの、正直半信半疑だった。」と打ち明ける。石巻プロジェクトの実行委員長だった西條さんは、「白屋が最終的に素晴らしい環境の中に納まった姿を見て大変感動した。このプロジェクトがいつの間にか大変すそ野の広い大事業になっていたと感じた。有難うございました。」と感謝の意を述べた。石巻、神戸と2回白屋プロジェクトに参加して創作した、台湾でも著名なアーティスト張新丞さんも今回のプロジェクトが成功したことを祝福した。そして、たくさんの方から挨拶を聞きたいが時間がない。もともと若いアーティストということで、日本の山崎さんと台湾の焦聖偉さんがそれぞれ感想を述べた。最後に、本日の特別ゲスト高雄市政府顧問・范巽緑さん（小林さん旧知の元中央政府教育部のトップ）から祝福の挨拶を受けた。



芸術村ギャラリーでの交流座談会。

終わりに、陰で事業を支えた芸術村のスタッフたち、3回も日本に赴き白屋建設に腕を振るった工作隊長の葉さん（棟梁の黄おじさんは別の現場で仕事でした）らに、皆で拍手を送り、労をねぎらった。さあ、落幕儀式が始まるぞ、と一同ギャラリーを出て白屋の周りに移動した。

落幕儀式（フィナーレ・セレモニー）

まずは、台湾式の土地の神様（土地公）に安全祈願する地鎮祭が始まる。石巻、大槌、神戸でも欠かさずこの儀式をやってきた。今回2か年にわたったプロジェクト、様々な紆余曲折があったものの事故は皆無であったのは、神様のお蔭であったかもしれない。この後、入口の紅幕を引



石巻、大槌、神戸でも欠かさずやった、台湾式の土地の神様（土地公）に安全祈願する地鎮祭。

き外して最後の白屋がオープンした。

白屋内部の片側には、日本人アーティストが創作した作品が飾られている。そして、反対側には、白屋プロジェクトの活動記録写真が展示されている。2010年にスタートした白屋活動は、日本プロジェクト以前に、台湾の南、北、西、東、中の5か所で行ったほか、「台湾ビエンナーレ」（台中国立美術館）の主要展示場にも出展した。さらに、2012年イタリア・ヴェニスにあるコンテンポラリーアートパークの **Forte Marghra** 展覧会に招待された。

これらを見ていると、不思議なパフォーマンスが始まった。巫女のような女性が呪文を唱えながら身をくねらし、男性の踊り手がセクシーなダンスを披露する。ビール片手に当たりを見回すと、大槌に来たアーティスト不舞親子など懐かしい知り合いに次々と再会する。これから宴もたけなわに入ろうとする頃だが、予定していた台北行新幹線の時間が迫ってくる。私たちは、用意していただいた車に駆け込むように乗り込んで芸術村を後にした。最後まで見送ってくれた人たちに、「ご苦労さん！」『辛苦了!!』『さよなら！』『再見！』



男性の踊り手によるセクシーなダンス。

台北

台北のホテルに着いたのは、7時だった。ロビーで平間真珠さんに落ち合った。彼女は石巻の創作に参加した若手で、今台湾に1年留学している。今回都合がつかず、台北で顔合わせだけでもとこの日合流した。

この後7時30分から、われわれの旧い知り合いである元台湾大学教授・国家防救センター長の陳亮全氏を囲む会がある。自由参加だが多くの人たちが寄り集まった。

明るく16日は、この日帰国の途についてメンバーを除いて、二つのグループや個人に分かれ、台北の自由見学である。それぞれが訪れた主なところを下記に列挙しておくにとどめたい。ただ、小林さんの計らいで案内役として付き合ってください、台北在住8年になる向日国際文化創造の津村葵さん、神戸芸工大に留学していた現台北市政府の葉意雯さんのお二人には、深く感謝申し上げます。

◎ 一滴水記念館及び淡水散策

淡水公園に日台交流で移設した日本の民家（神戸マチコミ）、陳舜臣の文庫もある。

◎ 九份

かつての金鉱の町で産業遺産としても興味深い。映画「悲情城市」で観光地になる。

◎ 華山 1914 文化創意産業園區

植民地時代の酒工場、1999年に文化芸術拠点に生まれ変わった。

◎ 国家人權博物館

「白色テロ」時期の軍事裁判所、拘置所遺跡を人權博物館として公開している。

そして、その夜は残ったメンバー全員、宿舎の近くの「點水楼」で最後の食事会。西條さんいわく、「台湾は美味しかった！」
ということで、めでたく解散した。

皆さん

熱い中、超過密スケジュールでご参加いただいた方は大変お疲れだったと思います。ご苦労さまでした。また、日華航空サービスの陸さん、天川秘書長はじめ準備でお世話になった方々、有難うございました。

台湾の新故郷文教基金会及び橋仔頭白屋の関係者の皆さん、いつものことながら今回も周到な準備と熱い接待（おもてなし）をいただき、大変有難うございました。

皆さん、お陰様でこれからの交流の足がかりが、また一つ深まったと思っています。

訪問団メンバー

13-15 日 埔里-高雄-台北		
西條允敏	SAIJO MASATOSHI	(石巻)
福留邦洋	FUKUTOME KUNIHIRO	(仙台)
宮本悠合	MIYAMOTO YURI	(石巻)
山崎百香	YAMAZAKI MOMOKA	(東京)
室崎益輝	MUROSAKI MASUTERU	(神戸)
小林郁雄	KOBAYASHI IKUO	
垂水英司	TARUMI EIJI	
石井修	ISHII OSAMU	
竹内浩太	TAKEUCHI KOTA	
李宇寶	LEE YUPAO	(台北)
15-16 日 台北		
陳亮全		(台北)
平間真珠		
津村葵		
葉意雯		

訪問団行程

7月13日 (日)	台北空港(桃園)着 高速鉄道(新幹線)バスなどを乗り継いで埔里の桃米に夕方到着。 仙台空港発組は晩遅く到着	桃米民宿 景上景																														
7月14日 (月)	桃米の紙教堂園区(ペーパードーム・パーク)、埔里周辺見学。 <table border="1"> <tr> <td>8:30</td> <td>宿舎出発</td> <td>マイクロバス</td> </tr> <tr> <td>9:00-10:00</td> <td>日月潭</td> <td>湖と復興産品</td> </tr> <tr> <td>10:20-11:00</td> <td>埔里の画家黄義永さん訪問</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11:20-12:15</td> <td>サイダッカ族文化の旅</td> <td>原住民集落訪問</td> </tr> <tr> <td>12:15-13:15</td> <td>璞拉蕾蝴蝶餐</td> <td>サイダッカ族料理</td> </tr> <tr> <td>13:45-16:00</td> <td>敲敲木工房、籃城書屋</td> <td>木工工房見学など</td> </tr> <tr> <td>16:15-17:00</td> <td>桃米、三茅屋民宿など見学</td> <td>復興エコ村づくり</td> </tr> <tr> <td>17:00-18:00</td> <td>紙教堂</td> <td>ペーパードーム</td> </tr> <tr> <td>18:00-19:30</td> <td>歓迎晩宴</td> <td>紙教堂</td> </tr> <tr> <td>19:30-10:00</td> <td>高雄橋頭芸術村へ</td> <td>マイクロバス</td> </tr> </table>	8:30	宿舎出発	マイクロバス	9:00-10:00	日月潭	湖と復興産品	10:20-11:00	埔里の画家黄義永さん訪問		11:20-12:15	サイダッカ族文化の旅	原住民集落訪問	12:15-13:15	璞拉蕾蝴蝶餐	サイダッカ族料理	13:45-16:00	敲敲木工房、籃城書屋	木工工房見学など	16:15-17:00	桃米、三茅屋民宿など見学	復興エコ村づくり	17:00-18:00	紙教堂	ペーパードーム	18:00-19:30	歓迎晩宴	紙教堂	19:30-10:00	高雄橋頭芸術村へ	マイクロバス	高雄橋頭 十鼓
8:30	宿舎出発	マイクロバス																														
9:00-10:00	日月潭	湖と復興産品																														
10:20-11:00	埔里の画家黄義永さん訪問																															
11:20-12:15	サイダッカ族文化の旅	原住民集落訪問																														
12:15-13:15	璞拉蕾蝴蝶餐	サイダッカ族料理																														
13:45-16:00	敲敲木工房、籃城書屋	木工工房見学など																														
16:15-17:00	桃米、三茅屋民宿など見学	復興エコ村づくり																														
17:00-18:00	紙教堂	ペーパードーム																														
18:00-19:30	歓迎晩宴	紙教堂																														
19:30-10:00	高雄橋頭芸術村へ	マイクロバス																														
7月15日 (火)	日本植民地時代の台湾製糖工場の一部を活用した芸術村や高雄市内のアートシーンを見学、交流座談会も行います。 <table border="1"> <tr> <td>7:30-8:30</td> <td>朝食</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9:30-10:30</td> <td>新浜埤頭芸術空間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10:30-11:30</td> <td>駁二藝術特區</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11:30-12:30</td> <td>昼食</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13:30</td> <td>白屋へ戻る</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14:00-16:00</td> <td>座談会と白屋歸郷開幕</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16:00-</td> <td>台北へ</td> <td>新幹線(高鉄)</td> </tr> </table> <p>なお、台北で7時30分から元台湾大学教授・国家防救センター長の陳亮全氏を囲む会。(自由参加)</p>	7:30-8:30	朝食		9:30-10:30	新浜埤頭芸術空間		10:30-11:30	駁二藝術特區		11:30-12:30	昼食		13:30	白屋へ戻る		14:00-16:00	座談会と白屋歸郷開幕		16:00-	台北へ	新幹線(高鉄)	台北 華華大飯店									
7:30-8:30	朝食																															
9:30-10:30	新浜埤頭芸術空間																															
10:30-11:30	駁二藝術特區																															
11:30-12:30	昼食																															
13:30	白屋へ戻る																															
14:00-16:00	座談会と白屋歸郷開幕																															
16:00-	台北へ	新幹線(高鉄)																														
7月16日 (水)	二つのグループや個人に分かれ、台北自由見学。 <ul style="list-style-type: none"> ◎ 一滴水記念館及び淡水散策 ◎ 九份 ◎ 華山1914文化創意産業園區 ◎ 国家人權博物館 6:30 最後の晩餐(點水樓)	台北 華華大飯店																														
7月17日 (木)	帰国																															